

平和 ～ルワンダを通して～

氏名： 中 陽佑

学校名： 奈良市立都祁小学校

担当教科： 外国語 図工 書写

実践教科： 外国語 図工 書写

時間数： 11時間

対象学年： 小学校 6 年生 人数： 6-1 23 名 6-2 22 名

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標：		
<ul style="list-style-type: none"> ・ルワンダの文化や風習、歴史について学ぶ。 ・ルワンダの児童が考える平和について知り、自らが考える平和とは何か再考する。 ・自分が考える平和について、伝えたいことを色紙や習字の形にまとめ、交流する。 		
【2】 単元の評価 規準	(ア) 関心・意欲・態度	平和の学習に、自ら進んで取り組むことができている。
	(イ) 思考・判断・表現	自分が考える平和とは何かについてまとめ、クラスで伝えることができている。(発表・ワークシート)
	(ウ) 技能	自分が考えた平和について、伝えたいことを平和の色紙や習字の形にまとめることができている。(平和色紙 習字)
	(エ) 知識・理解	過去にルワンダで起こったことやルワンダの文化・風習について理解している。(発表・ワークシート)
【3】 単元設定の 理由	<p>今回、教師海外研修への参加にあたり、研修を通じて学んだことを、平和をテーマにした学びの中で生かそうという思いを持っていた。</p> <p>本校の6年生は修学旅行で広島を訪れる。修学旅行における平和学習と関わらせ、ルワンダでの出来事を伝え、今自分たちが「広島」を通して知る出来事は、何も日本だけではなく、世界各地で起こってきているのだということを知り、考えさせたいと考えた。</p> <p>ルワンダにおけるジェノサイドは1994年、今から25年前に起こっており、広島と比べると写真等の資料も多く残っているため、より平和に関して深く学ぶことができる。そのような学びが、児童らが、日本国内だけでなく、世界にも目を向けるようなきっかけとなると考えている。</p> <p>ただし、ジェノサイドの出来事を伝えることが、ルワンダが単に怖い国だというイメージを持たせることに繋がってほしくはない。そのために、単元の前半では、ルワンダの文化や風習、そして児童らにとって身近な子どもたちの生活について伝えることで、ルワンダという国に親近感を持たせたい。</p> <p>単元の後半では、ルワンダのウムチヨムイーザ学園の児童がどのように平和について考えているのかを知ることで、自分たちにとって平和とは何なのか、ということに改めて迫らせる。単元の最後には、自分の考える平和について、伝えたいことを色紙や習字の形で表し、それをクラスで互いに交流させることで、児童ら自身がより平和について理解を深めることができるようにしたい。</p>	

【4】展開計画（全11時間）			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	ルワンダについて学ぶ ねらい ルワンダの文化や風習を紹介し、ルワンダという国に興味を持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> 写真や実物を見ながら、ルワンダの町の様子や文化、風習について知る それらと日本を比較し、ルワンダと日本との共通点や相違点を感じる 	<ul style="list-style-type: none"> 写真 パワーポイント資料 タブレット端末 ワークシート
2 3	ルワンダの学校の様子や、現地の子どもたちの生活について学ぶ ねらい 自分たちと同じルワンダの子どもたちが通う学校の様子や、普段の生活の様子を知り、比較する。	<ul style="list-style-type: none"> ルワンダの学校や小学生の写真を見せる 各グループに写真を渡し、日本の学校との共通点・相違点を話し合い、発表させ共有する。 NHK for school を視聴し、一日の流れの言い方を復習する 自分たちの一日の流れを英語にして言う ルワンダの児童の一日の流れを紹介して自分たちのものと比較し、違いに気付く 	<ul style="list-style-type: none"> 写真 パワーポイント資料 NHK for school MY DAY 絵本 ワークシート
4	ルワンダの歴史について学ぶ ねらい ルワンダで過去に起こったジェノサイドについて知らせ、戦争や紛争の被害が、日本だけではなく他の国でもあったことを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ロイロノートを使って導入をする キガリミュージアムの子どもの写真を見せる ホテルルワンダのDVDを視聴する ペアトークやロイロノート等でお互いの考えを交流する 	<ul style="list-style-type: none"> 写真 パワーポイント資料 タブレット端末 DVD「ホテルルワンダ」 ワークシート
5 本時	平和とは何かについて考える ねらい ルワンダの児童が考える平和について知り、自分たちにとって平和とはどんなことなのか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ロイロノートを使って導入をする ルワンダの児童が考える平和について、写真を使って紹介する 自分が考える平和について考え、タブレット端末に記入する ロイロノートを使って、ペア、学級で交流する 	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイント資料 タブレット端末 写真（ウムチョムイザ学園の児童） 掲示資料 ワークシート
6	自分が考える平和について、習字に表す ねらい 前時考えた内容を元に、自分が考える平和について再考し、習字に表す。	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を振り返る 自分が考える平和について、半紙に記載する内容を考え、決める 作品を完成させる 	<ul style="list-style-type: none"> 習字セット 漢字辞典 国語辞典

7 8 9 10	平和色紙を作る ねらい 自分自身が考える平和について、広島で見た景色を背景に、伝えたいことを色紙にまとめる。 だいち小の児童に見せることを念頭に置き、相手意識を持って作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自らが考えた平和について、伝えたいことを色紙に書くためのレイアウトを決める ・下書きをする ・清書をする (鉛筆 絵の具 色鉛筆 マイネームペン ボールペン) 	<ul style="list-style-type: none"> ・色紙 ・下書き用紙 ・タブレット端末 ・絵の具セット ・色鉛筆 ・マイネームペン ・ボールペン
11	平和色紙の内容を交流する ねらい 自分の考えを整理して伝えるとともに、他の児童が考える平和についても知り、自らの考えを深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・平和色紙をペア、グループで交流する ・色紙を持って、個人写真を撮る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・タブレット端末 ・デジタルカメラ

【5】 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (15分)	ロイロノートを使ってのワークショップ ・修学旅行の学びを色で表すと何色だろう？ 広島での平和学習・ルワンダの事前学習について思い出す ・今、自分が持つルワンダのイメージは何色だろう？	前時までの学習を生かしながら活動するよう伝える ペアトークの後、こちらで児童らの意見をつなげ、広げるようにする 写真等を使い、これまでの学習を振り返る 前回考えたイメージとも比較しながら考えさせる。	・パワーポイント資料 (スライドショー) ・タブレット (ロイロノート)
<p>自分が考える平和って何だろう。</p>			
展開 (20分)	ルワンダの児童が考える平和について知る 日本にいる自分が考える平和とは何か、タブレット端末に書く ペアで伝え合う	パワーポイントや板書を使い、内容をまとめていく これまで見てきたものと比較して考えるよう伝える 自分の考える平和と他者の考える平和を交流し、自分の考えを再度意識させる	・パワーポイント資料 (スライドショー) ・掲示資料 ・タブレット (ロイロノート)

	全体で意見を発表し、児童らの意見を整理する（マッピング）	※相手の意見を否定しないよう促す	
まとめ (10分)	本時の振り返りを書く その後、交流する。	ワークシートにまとめ、交流を行わせる	・ワークシート

【授業実践の様子】



これまでの学びを色で表す



ルワンダの子どもたちが考える平和を学ぶ



自分たちが考える平和とは何か



タブレット端末を1人1台使用して学習

【6】本時の振り返り

本時は、本校6年生児童が修学旅行から帰ってきて、最初の外国語授業であった。そのため、まずは、修学旅行の学びがどのようなものであったか、タブレット端末を使って各自に色で表させた。また前時に学習したルワンダの虐殺の歴史についても振り返りを行い、それらを学習した今、各自が思うルワンダのイメージについても色で表させた。前時にそれぞれを色で表す活動をしていたため、この学習を経てどのように自分自身の考えが変わったのか、ということを感じ、深めさせることができた。

次に、ルワンダの児童がどのようなことを平和と感じるのかについて予想させた。実際に現地で、ウムチョムイーザ学園の小学校6年生の児童らに「What is PEACE for you?」という質問をし、それに対する答えを書いてもらった写真を見せて学習を進めていったが、ルワンダの児童が書いてくれた Sharing(分け合うこと)や Harmony(調和し協力すること)などは日本の児童の予想からは出て来なかったため、印象に残ったようであった。

その後、自分たちが考える平和はどのようなものかについて考えさせた。児童らは、これまでのルワンダに関する学習での学びや、広島を通した平和学習の学びを生かして、しっかりと考えることができていた。タブレット端末を一人一台使用して、そこに自分の考えを書き込ませ、その考えをロイロノートというソフトで教室のテレビで共有することで、他の児童の考えと自分のものごとを比較することができ、自分の考えを深めることにもつながった。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

本単元の授業を進めていくに当たり、児童らには毎回の授業後に振り返りを書かせ、その時間の学びや自分が感じたことを文字にしてまとめさせるということをしてきた。単元の学習が進んでいくにつれ、児童らが書く振り返りの内容や量も、当初より深まりが見られるようになった。

児童らの感想からは、「授業前は、戦争は日本だけ嫌な目にあっていると思っていたが、授業を受けて、世界のあちこちで内戦や戦争をしているということが分かった。」 「授業を受けて、人の命の大切さやルワンダの子たちのことも知れて、自分の中でも少しは受ける前より変化した。」 「授業を受ける前は戦争や争いがだめだということは分かっていたけれど、具体的なことは分からなかった。でもこの授業を受けた今では、本当の戦争の悲しみ、恐ろしさが分かったし、自分の今までの行動を見なおそうと思ったところもあった。」など、本単元の学習の学びが、児童らの中でしっかりと消化され、生かされていることが読み取れた。

また、図工科で色紙作品づくりに取り組んだ際には、広島への修学旅行での平和学習や、本学習を通した学びを生かし、どの児童も真剣に取り組むことができていた。作成した色紙は、他校との交流用の資料作りの他に、授業参観での発表にも活用した。

図工科の授業で作成した平和色紙



【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

本単元の学習を全て終えた後、児童らに改めて学習を振り返らせ、感想を書かせた。その中からは、児童らがこの学習を通して様々なことを学び、考え、深めた様子が読み取れた。またルワンダを題材とした本単元の学習に、前向きに取り組んでいた様子も読み取れた。以下にその一部を示す。

○ルワンダのことを知れてよかった。ルワンダの子の笑顔を消したくないから、二度と戦争は起こってほしくないと思った。

○今のルワンダは建物がたくさん建っていて平和だと思うけど、昔のルワンダではすごくひどいことが起こっていて、ひどい殺され方をされたり、したりしていたことを知り、今はしてはいけないと思った。小さい子供まで殺されていて、まだまだ人生があったのと思った。

○昔は、日本と同じように子どもも大人も関係なく殺されていた歴史があるのに、日本もルワンダもここまで復旧したりして、あきらめなかったことがすごいと思った。

○怖い歴史もあるけど、人が優しくそうだった。大変そうだけど楽しそうにしている、ルワンダの人はすごいと思った。一回行ってみたいなあと思った。

○今のルワンダは平和だと思った。人が明るい感じだったから、幸せに暮らしていると思った。つらい過去はあったけど、それを乗り越えられたんだと思った。

○昔は日本以外にも苦しい思い、悲しい思いをしている場所があったことを初めて知ったので、私は国内でも、違う国とも争いを起こさず、これからもみんなが楽しめる町にしたいと思った。

○話や映像を見たり聞いたりして、戦争の恐ろしさが何度も心に刻まれたこの学習は、怖い気持ちで心に残ったけれど、今の平和が尊いということも教えてもらった。この学習をしてよかったと思った。

【途上国・異文化への意識の変容】

(授業前)

本授業実践の第1時で「アフリカのイメージは？」と児童らに問いかけたところ、サバンナ、砂漠、ゾウ、黒人、あつい、などの表面的なイメージが多かった。日本から地理的に遠く離れた場所であり、自らが直接アフリカに関わった経験を持つような児童もいなかったためだと考えられる。1学期に国際理解DAYという学校の取り組みにおいて、ルワンダを紹介し自分が夏に行くことを伝えたが、紹介した全11カ国のうちの1つにすぎなかったため、児童らにとってはあまり印象に残っていなかったようで、この授業実践を始めた当初は、反応は薄かった。

(授業後)

アフリカのイメージ、そしてルワンダのイメージを授業当初に色で表現させた。授業実践を進めた後に再度同じ質問をすると、児童が表現する色は大きく変化していた。単色だったものを複数の色で表現する児童が増えたり、なんとなく選んでいた色が自分なりの理由を持って選び表現できるようになってきていた。

また、日本と異なる点のみならず、共通点についても、学習を進める中で多くの児童が気付くことができた。肌の色や生活のスタイル等は違っても、日々の遊びや学校での生活に共通点を見つけ、遠く離れていても、小学生として同じ部分がたくさんあることに気付いた児童も多くいた。自分もルワンダに行ってみたいという感想を書いた児童もあり、児童らの目を広く世界にも向けさせることができたという点も、本授業実践の成果の一つであると言える。

【8】自己評価

1. 苦勞した点	<p>1学期に、本校の取り組みである国際理解 DAY で、ルワンダのことに触れて布石を打っておいたものの、やはり日本から遠いアフリカの国ということで、児童らも本単元を学習し始めた2学期当初は、あまりイメージがわからない様子であった。現地から持ち帰った現物資料や写真等を見せることで、興味・関心を持たせることができた。</p> <p>ジェノサイドについては、小学生に具体的な内容を提示する難しさがあった。虐殺記念館等で資料収集はしたものの、虐殺の直接的な描写や写真を見せることは難しいと判断し、ホテルルワンダの映画の中で、関連するシーンを紹介することでその内容に変えた。また虐殺で殺された児童らの写真を見せ、自分たちとの共通点を感じさせたうえで話を進めたことで、「自分ごと」としてとらえられる児童が増えたことは大きな成果だと言える。ただ、このような内容を、小学生が深いところまで理解をするには時間がかかると感じた。</p>
2. 改善点	<p>今回の研修で行ったムトボで見た衝撃・感じたことを伝えたかったのだが、ルワンダの歴史的背景から時間をかけて説明する必要があったため、時数の都合で見送ることとなった。小学生には難しい部分もあるのだが、今後この内容を改めて実践する場合は、それらの内容も入れてカリキュラムを組むことができればと思う。</p>
3. 成果が出た点	<p>勤務校の平和学習は、広島へ行く修学旅行を軸にしたものであったが、ルワンダの事例を紹介することで、児童の目を日本だけでなく世界にも向けることができたと思う。それで終わりではなく、自らにとって平和とはどのようなことなのかを改めて考えたこと、ルワンダの小学校の児童が考える平和についても知ったこと、これらを通して、児童ら自身の考えも深めることができた。また日本から遠く、児童らが表面的なイメージしか持っていなかったアフリカのルワンダに関して、授業実践を進める中で興味を持つ児童が増え、授業を楽しみにしてくれるようになった。ルワンダの子どもたちと日本に住む自分たち、異なる部分はもちろんだが、似ている部分や共通する部分についても考えさせる機会を持つことができたことは、今後にもつながるだろう。</p>
4. 備考（授業者による自由記述）	<p>ルワンダについて、平和をテーマとして取り上げ、6年生で授業を進めてきたが、現地で見聞きしてきたこと、自分が経験してきたことについては、国際理解教育的な観点で、他学年でも授業を行い、児童らに伝えていきたい。</p> <p>また、今回の実践で取り上げることができなかった部分についても、今後実践を進めていきたい。具体的には、2020年1月に本校で行う防災教育 DAY と関わらせて、ルワンダにおいてドローンを活用した血液輸送の取り組みを進めているジップライン社や、ドローンを活用した JICA の国際貢献の取り組みに焦点を当て、それらの実情を紹介する授業を行う予定である。</p>

参考資料：

DVD「ホテルルワンダ」

本「MY DAY」

NHK for School (<https://www.nhk.or.jp/school/>)